

○事業所名	放課後等デイサービス キッズワンハート		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 25日		～ 2025年 2月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2025年 2月 26日		～ 2025年 3月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日ごろから保護者様と密に連絡を取り、共通理解ができるように努めている。保護者様の相談にいつでも対応できるようにしている。	ご利用時の様子は、アプリの連絡ツールやSNSを通じて保護者様にその日のうちにお伝えしている。また、すぐに対応が必要なことは、電話でお伝えし、その後面談等を行っている。定期的な面談を実施し、ご家庭での様子や、学校での様子、事業所での様子等を話し合い、うまくいっていることや課題等の話し合いをしご家族様と共通認識の元、支援計画を作成し、支援にあたっている。SNS等の利用により相談が気軽にできたり、いつでも相談しやすい雰囲気や関係性を大切にしている。	個々での相談や困り感等に対応し事業所と保護者様との関係を築いているが、保護者同士のつながりの対応ができていないため、保護者同士がつながれるような機会を作っていく。また、多方面からの相談にお応えできるように研修に参加したり文献を読んだり実践で深めた知識等を保護者様にアドバイスできるようにしていく。
2	子どもが自分らしく安心して生活する場となるように、5領域を取り入れながら、子どものニーズや生活状況を踏まえて子どもの育ちに必要な支援を組み立てている。 子どもが安心・安定して過ごせる環境を整えている。	個々の活動では個別支援計画を基に個々のニーズに合わせた活動を実施し興味のもったものに集中して取り組める環境を用意している。集団活動では5領域ごとに目標をたてた小集団での支援計画書を作成し多彩なプログラムを実施している。子どもが生活する空間はソファ等を配置し、温かで親しみのあるくつろげる空間と、学習などのスペースや活動スペースを組み合わせた空間、不安な気持ちを落ち着ける空間ごとに分けわかりやすく過ごしやすい環境を整えている。	外出等の社会経験を積み機会を今まで以上に増や多様な体験の機会を提供していく。 また地域の住民の方と関わる機会を持ったり、放課後等デイサービスを知っていただくことで、地域と繋がりが地域での居場所をつくっていく。
3	職員が虐待防止や意思決定支援などの研修に参加し、一人ひとりの人権を大切に、子どもが主体性を持った療育を実施している。	年に2回以上の人権に関する研修に参加している。 職員のメンタルヘルスにも力を入れている。 子どもと共に活動を企画したり、過ごし方のルール作りをしたりして子どもが主体的に意見が表明しやすい環境や関係を作っている。子どもの意見を受け止め一人ひとりに寄り添った支援を実施している。	職員のメンタルヘルスに力を入れていく。職員が相談できる産業医や、事業所内で安心して自分の意見の出せる関係性等、一人の支援者に負担がかからないように会社全体で職員をトータル的にサポートしていく。職員の気持ちが安定することでご利用者様の安定した支援へとつながるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動や、保護者会等の開催が行われていない。	幅広い学年層だったり、特性も異なるため、保護者同士がつながる機会を設けることが難しい。 また、働いている保護者様も多く、時間をとることが難しい等の意見もあったため開催を見送っていた。SNS等での情報もあふれているため、保護者会を希望する声が少なかった。	繋がりを希望する保護者様には随時対応する。直接保護者会の開催が難しくても先輩保護者の意見を聞く機会を設けたり、個々の保護者様がつながれる役割をデイが担っていく。保護者様や、ご兄弟が参加できるイベントを土曜日や祝日等参加のしやすい曜日に設定をする。
2	児童クラブや児童館との交流ができていない。	児童クラブと併行利用している児童もいる。 保護者様の意見としては、希望していないとの意見もあがっている。	1人1人の様子を見て必要があれば交流をしたり、学童との併用や移行を考えていく。近所の公園に行く機会を増やし、自然な流れで交流する機会を今後も増やしていく。
3	事業所にバリアフリーではない場所がある。	教室の中に段差がありバリアフリーではない。 意図的に段差を設けることで身体の使い方を学べるように環境設定している。	今後、バリアフリーが必要であれば、スロープを検討していく。